

10 - 1 南海トラフと琉球海溝の地震活動変化

Seismic activity along Nankai trough and Ryukyu trench

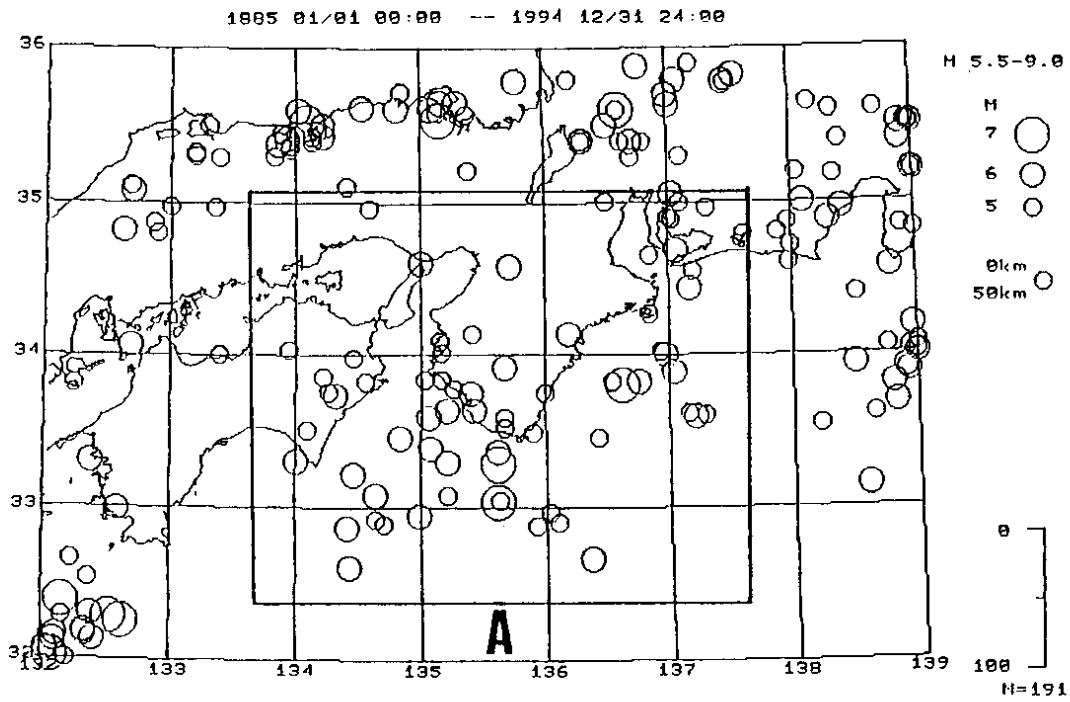
京都大学大学院理学研究科

Department of Geophysics, Kyoto University

1885年から1994年までの浅い地震の時間変化から、1944年および1946年の南海トラフの巨大地震前後でプレート境界地震の1サイクルの活動が読み取れる。このような巨大地震を中心に活動が変化する傾向は、海山列が衝突していて活動度の高い日向灘を隔てた隣の琉球海溝でも見られ、活動のピークは南海トラフとほぼ半サイクルずれている。

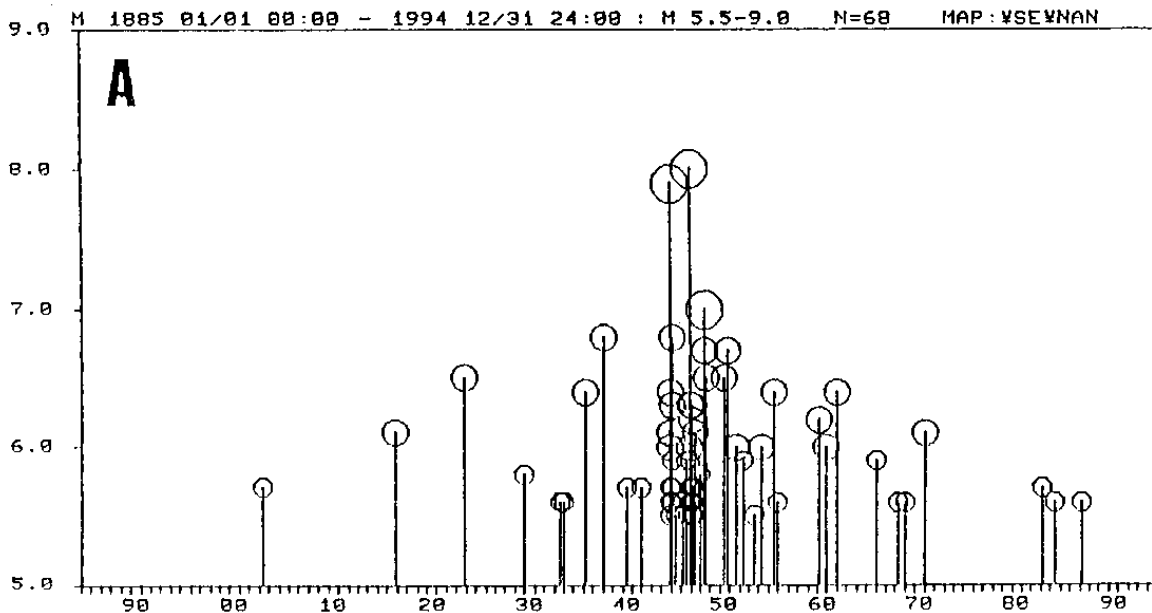
歴史地震のデータからほぼ同じ地域の大規模地震の時間変化を見ても、南海トラフと琉球海溝の活動のピークが交互に現れている。

(尾池和夫)



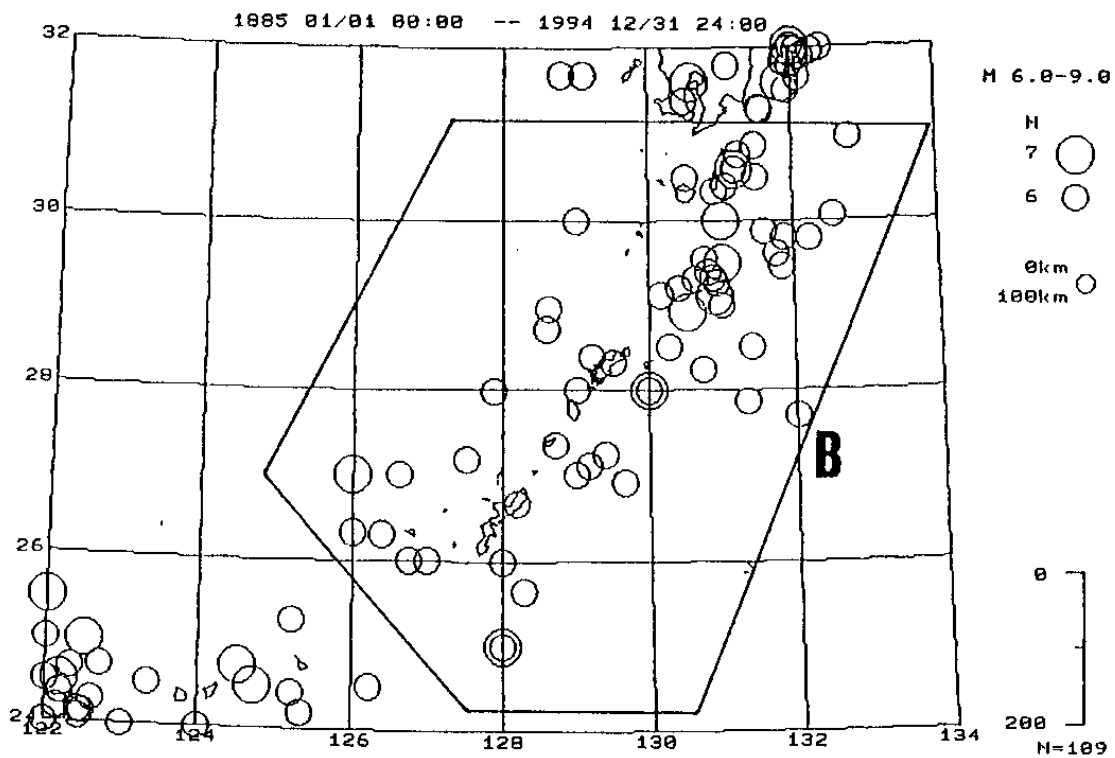
第1図 1885年 - 1994年の西南日本の地震（深さ0 - 50km）の分布

Fig. 1 Distribution of shallow earthquakes in Southwest Japan (1885-1994, depth=0-50).



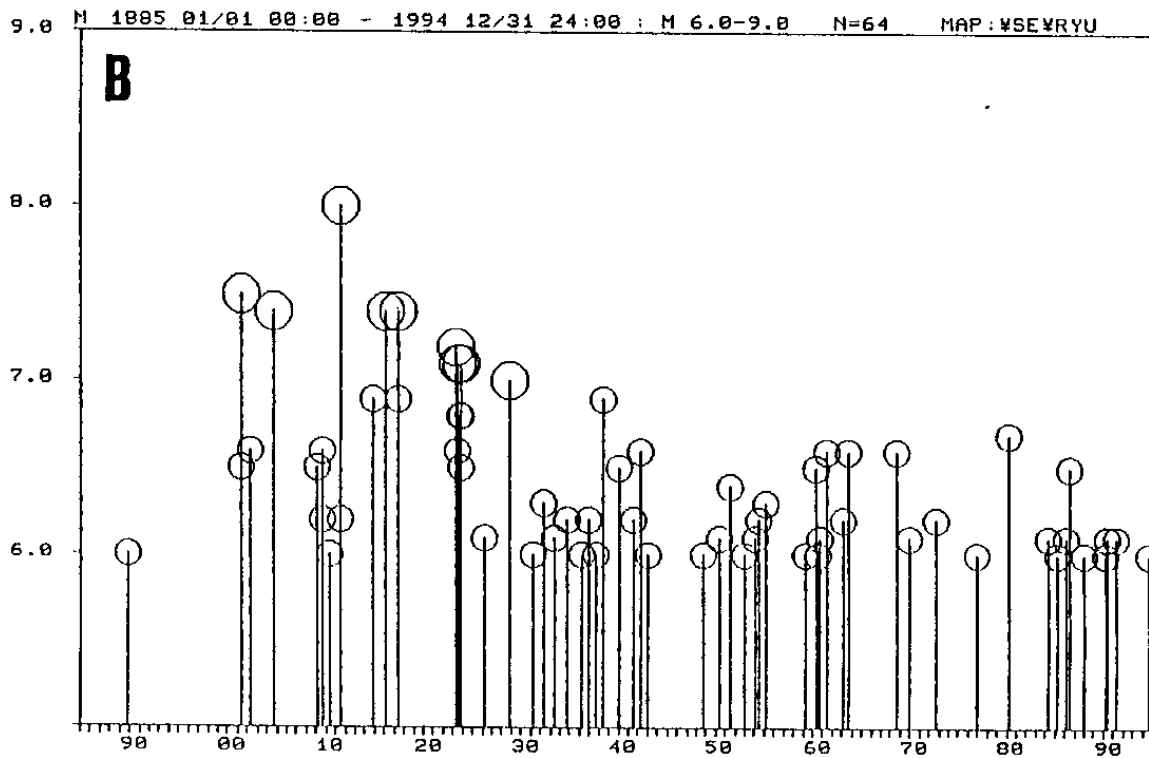
第2図 南海トラフの巨大地震前後の周辺（第1図の長方形の範囲）の地震活動変化

Fig. 2 Time series of earthquakes in the frame shown in Fig. 1 along Nankai trough.



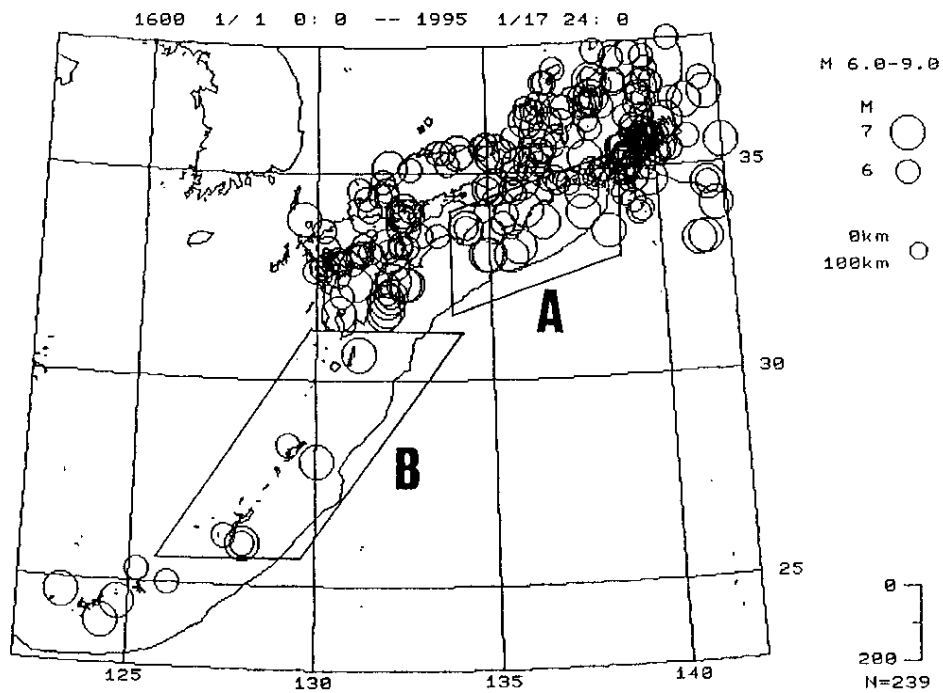
第3図 1885年 - 1994年の琉球海溝付近の地震（深さ0 - 100km）の分布

Fig. 3 Distribution of shallow earthquakes in the Ryukyu trench region (1885-1994, depth=0-100).



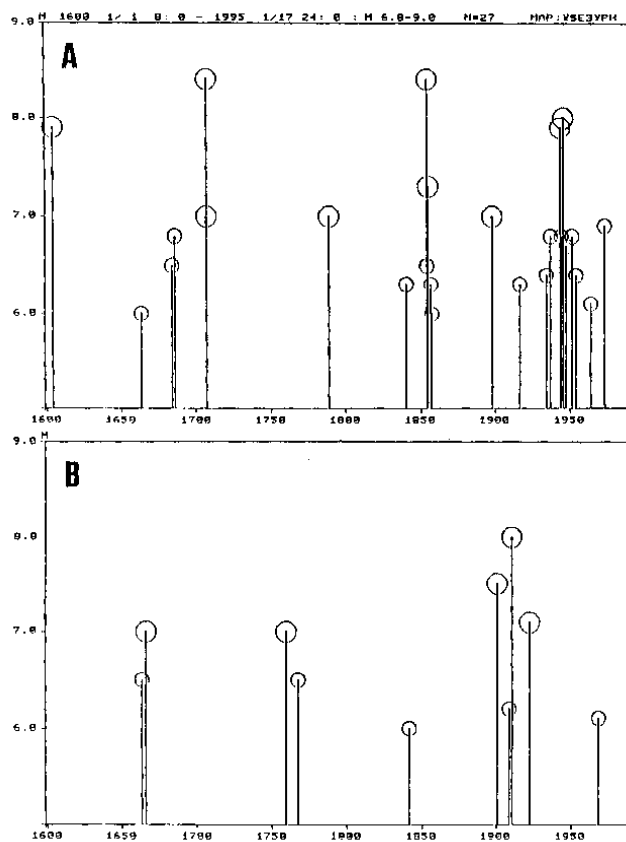
第4図 第3図の枠内の地震の時系列

Fig. 4 Time series of earthquakes in the frame shown in Fig. 3 along Ryukyu trench.



第5図 歴史地震の分布 (1600年以後, M 6)

Fig. 5 Distribution of historical earthquakes since 1600 (M 6).



第6図 第5図のAおよびBの地域の地震の時系列

Fig. 6 A : Time series of historical earthquakes in the A region shown in Fig. 5. B : Those in the B region shown in Fig. 5 .